

暑熱環境の

感電災害に注意！！

横浜西労働基準監督署



汗などで体が濡れた状態では、
感電リスクが高まります！

去年は夏場の感電で死亡事故
が発生。

低圧でも死亡・重大事故の恐れあり！

令和6年に管内で発生した感電による死亡災害の概要

発生月	業種	被災者年齢	発生概要
8月	その他の建設業	25～29歳	プラント内の補修工事において被災者が腹ばいの体勢になり内部を覗き込もうと <u>投光器</u> を手に持ったところ感電し、うめき声を上げ、硬直状態となった。搬送先の病院で死亡が確認され、感電死と判明したもの。感電した <u>電圧</u> は100Vであった。

<災害発生原因>

- ・アースが取れていなかったこと
- ・電路上に漏電遮断器が無かったこと
- ・使用した延長ケーブルの補修不備
- ・周囲が金属に囲まれた電気を通しやすい環境だったこと
- ・当時の気象条件は気温33.4℃、湿度59%、WBGT31.4度で汗をかきやすい条件だったこと

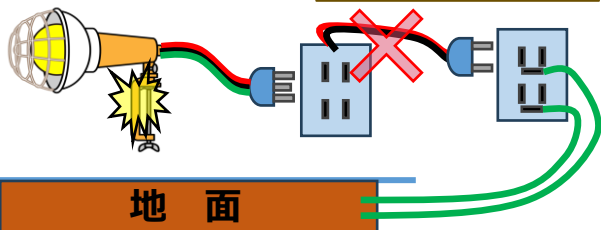
裏面を
チェック！



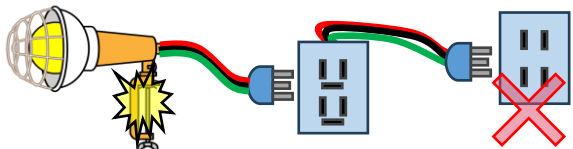
アースは確実に接地しましょう！

NG例

中間のケーブルが2芯でアースが取れていない



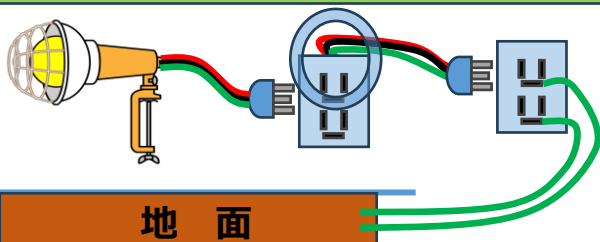
地面



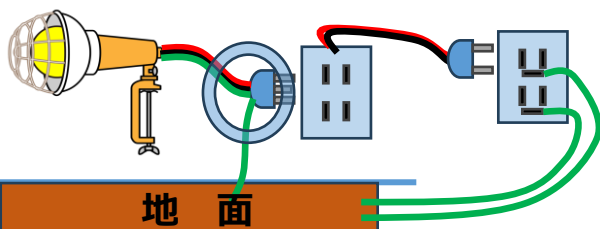
地面

電源が2Pでアースが取れていない

OK例



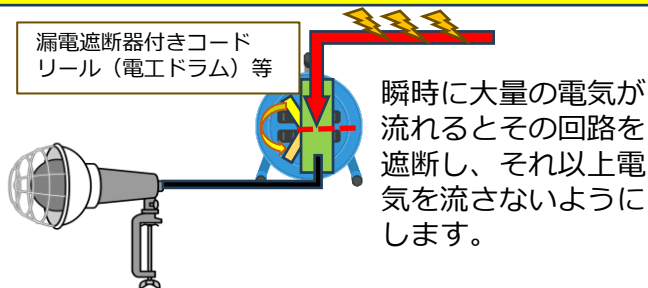
地面



地面

漏電遮断器を接続しましょう！

漏電遮断器付きコードリール（電工ドラム）等



瞬時に大量の電気が流れるとその回路を遮断し、それ以上電気を流さないようにします。

アースのみの場合

電気の大部分は地面に流れるが、手が濡れている場合は感電するおそれあり。

漏電遮断器のみの場合

一度人体を漏電電気が流れてから回路を遮断するため、一瞬は感電する。

→アース・漏電遮断器の併用を！

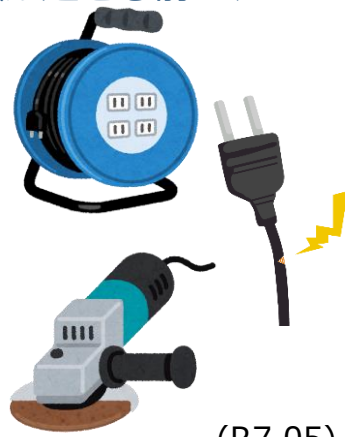
夏場の感電防止のため、電気工具、配線、保護具等の見直しを！

神奈川県で発生した過去20年間（2005年1月～2024年12月）の感電による労働災害件数

発生月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
休業4日以上	7	7	10	8	11	19	11	33	20	12	13	4
うち死亡	1	0	0	1	0	3	0	5	2	0	1	0

感電の労働災害は半数以上が夏季(6月～9月)に発生しており、特に死亡災害は13件中10件が同時期に集中しています！万が一の事故が起きる前に、

- ・ケーブル等の被膜の剥がれ、劣化の点検（充電部の露出はNG!）
- ・過去の補修部分の劣化や補修方法の点検（断線の素人修理はNG!）
- ・（電工ドラム、延長ケーブル等）漏電遮断器付きの物への更新
- ・保護具の点検、在庫の確認
- ・安全教育の実施



等、電気取扱について点検・見直しをお願いします！

(R7.05)